

琉球大学学術リポジトリ

沖縄県の高校生の価値観と興味に関する調査研究（第三報）：学校生活と家庭学習の適応について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2018-09-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 恒男, 下地, 敏洋, 多和田, 実, Shimabukuro, Tsuneo, Shimoji, Toshihiro, Tawada, Minoru メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/42510

沖縄県の高校生の価値観と興味に関する調査研究（第三報）

—学校生活と家庭学習の適応について—

島袋 恒男¹⁾・下地 敏洋²⁾・多和田 実³⁾

Senior High School Students' Interests and Values in Okinawa (3rd Report) : Adaptation of School Life and Home Learning

Tsuneo SHIMABUKURO, Toshihiro SHIMOJI, Minoru TAWADA

Abstract

Purpose of the Study: The main purpose of this study is to report the status quo through the result of questionnaire survey on the adaptation of school life and home learning of public high school students in Okinawa.

Design and Methods: The authors carried out the questionnaire survey on high school students' interests and values at 6 prefectural high schools in Okinawa. Respondents (N=1323) completed the questionnaire. Questions of each category were analyzed with Cluster analysis (Factor Analysis) and the results were shown the correlations among each category.

Results: Six clusters for interests and 4 clusters for values are found through Cluster Analysis and the relationships between each cluster and the adaptation of school life and home learning are shown. The results also show that several differences between genders and grades in some questions and among several factors. Female students and third-year-student had more interests in many social topics compared to their counterparts.

Implications: It is a good way for high school students to have more chances to talk about many topics with parents and teachers to improve their motivation toward to academic works and future jobs. Therefore, carrier education focused on life-long education should be considered in high schools, especially for male students.

1. はじめに

沖縄県教育庁（2017）によると、沖縄県高校生の国公立大学合格者は、平成27年度1,368名（平成7年度511名）大学進学率も39.2%（平成28年度）と向上しているものの、全国比（54.7%:平成28年度）では最下位である。大学等志願率は、48.1%（41位:全国61.0%）であるが、平成28年度入試大学センター試験現役志願率は、28.7%（全国43.4%）で全国最下位となっている。

一方で、高校生の半数以上が大学までの進学を希望しているにも関わらず、最終的に大学進学希望者は4%から5%程度減少し、高校まででよいとする回答が増える傾向がある。具体的には、高校までの希望者は10.5%から15.2%に増加、大学までを進学希望者は52.4%から48.0%に減

¹⁾ 琉球大学教育学部教授

²⁾ 琉球大学教職大学院教授

³⁾ 琉球大学教職センター准教授

少している。このことは、島袋と下地の調査（2017）で同様の結果を得ており、高校までの希望者は1年生 8.2% から3年生 9.5%、大学までの希望者は 70.0% から 59.2% に減少している。

この背景要因について、経済的理由（66.1%）がある一方で、学力（66.1%）や意欲面（61.9%）に関する理由も示されている。このように、学校生活及び家庭での学習の状況は、高校生の進路決定に大きな影響を与えていることが考えられる。

沖縄県の高校生の価値観と興味に関する調査研究においては、現在の高校生の興味・関心及び価値観（善悪観）の特徴を把握すること、1993年の調査結果と比較することで、ここ20年間で変化のみられる沖縄県高校生の特徴や課題等についても把握することとした。これらの結果を踏まえ、今後の沖縄県高校教育のあり方、特にキャリア教育のあり方について提言することを目的としている。

本稿では、学校生活や家庭学習の現状（学校適応）について、アンケート調査結果を基に性差及び学年別のデータ、クラスター分析による興味・関心及び価値観（善悪観）のクラスターと学校生活や家庭学習の現状（学校適応）の相関関係について述べる。第四報以降において、興味・関心及び価値観（善悪観）のクラスターと自己観との相関関係、調査結果に影響を与えたと推測される沖縄県高校教育の背景要因等について述べる。

2. 研究方法

(1) 調査対象者

調査は、平成8年度の調査結果と可能な限り比較検討するため、那覇地区及び近郊の高等学校、普通高等学校4校、専門高等学校2校、計6校に対して、平成29年7月1日～31日に実施した。各学校とも各学年2クラス（計6クラス）を対象とした。対象者は1404人で1323人が回答し、回収率94.2%であった。その中で、意図的な同一番号への回答、回答の判別が難しい回答等の54人を欠損値とし、最終的に1269人を対象に結果分析を実施した。詳細については、第一報を参照ください。

データの分析は、HALBAU7を用いて行い、統計的優位水準はP値が0.005以下とした。

3. 結果

(1) 学校生活や家庭での勉強についての性差（表1）

質問は、「次のことについて、一つだけあてはまるものを○で囲んでください。」であった。選択肢は、①「まったくあてはまらない」、②「あてはまらない」、③「あてはまる」、④「よくあてはまる」の4つであった。

各質問で、「あてはまる」と「よくあてはまる」に回答した人数（と割合）は、次のとおりである。

- ①「学校に行くのが楽しい」：男子 354 人（75.6%）、女子 614 人（77.3%）
- ②「学校でもよく勉強しているほうだ」で「まったくあてはまらない」、「あてはまらない」に回答した生徒は、男子 379 人（80.6%）、女子 631 人（79.4%）である。
- ③「友達に恵まれているほうだ」：男子 400 人（85.7%）、女子 733 人（92.6%）
- ④「先生を信頼して何でも話すことができる」：男子 240 人（51.2%）、女子 393 人（49.6%）
- ⑤「部活には熱心に参加している」：男子 267 人（57.3%）、461 人（58.3%）
- ⑥「学校に行くことは私の将来に役立つ」：男子 420 人（89.4%）、女子 735 人（92.5%）
- ⑦「いま勉強することは私の将来に役立つ」：男子 430 人（91.5%）、女子 735 人（92.5%）
- ⑧「友達は私の人生において、かけがえのない貴重な存在だ」：男子 432 人（91.9%）、女子 738 人（92.9%）
- ⑨「よく勉強して実力をつけても、何の役に立つのかわからない」で「まったくあてはまらな

い」と「あてはまらない」に回答した人数（と割合）は、男子 292 人（63.2%）、女子 482 人（60.6%）である。

⑩「この学校は、私にとって良い影響を与えている」：男子 373 人（79.5%）、女子 659 人（82.9%）

表 1 【学校生活・家庭学習】

			1	2	3	4
1	学校楽しい	男	31 6.6%	83 17.7%	245 52.4%	109 23.3%
		女	26 3.3%	154 19.4%	400 50.4%	214 27.0%
		計	57 4.5%	237 18.8%	645 51.1%	323 25.6%
2	勉強	男	139 29.6%	240 51.1%	76 16.2%	15 3.2%
		女	231 29.1%	400 50.3%	137 17.2%	27 3.4%
		計	370 29.2%	640 50.6%	213 16.8%	42 3.3%
3	友人	男	16 3.4%	51 10.9%	258 55.2%	142 30.4%
		女	14 1.8%	45 5.7%	367 46.3%	366 46.2%
		計	30 2.4%	96 7.6%	625 49.6%	508 40.3%
4	先生を信頼	男	53 11.3%	176 37.5%	189 40.3%	51 10.9%
		女	103 13.0%	297 37.5%	294 37.1%	99 12.5%
		計	156 12.4%	473 37.5%	483 38.3%	150 11.9%
5	部活	男	129 27.6%	71 15.2%	141 30.2%	126 27.0%
		女	207 26.2%	123 15.5%	233 29.5%	228 28.8%
		計	336 26.7%	194 15.4%	374 29.7%	354 28.1%
6	学校・有益	男	10 2.1%	40 8.5%	213 45.3%	207 44.0%
		女	9 1.1%	51 6.4%	346 43.5%	389 48.9%
		計	19 1.5%	91 7.2%	559 44.2%	596 47.1%
7	勉強・有益	男	6 1.3%	34 7.2%	202 43.0%	228 48.5%
		女	9 1.1%	51 6.4%	330 41.5%	405 50.9%
		計	15 1.2%	85 6.7%	532 42.1%	633 50.0%
8	友人・貴重	男	11 2.3%	27 5.7%	200 42.6%	232 49.4%
		女	12 1.5%	44 5.5%	253 31.9%	485 61.1%
		計	23 1.8%	71 5.6%	453 35.8%	717 56.7%
9	勉強の意義	男	85 18.1%	212 45.1%	125 26.6%	48 10.2%
		女	125 15.7%	357 44.9%	256 32.2%	57 7.2%
		計	210 16.6%	569 45.0%	381 30.1%	105 8.3%
10	学校・影響	男	20 4.3%	76 16.2%	250 53.3%	123 26.2%
		女	23 2.9%	113 14.2%	389 48.9%	270 34.0%
		計	43 3.4%	189 15.0%	639 50.6%	393 31.1%

(2) 学校生活や家庭での勉強についての学年差（表 2）

各質問で、「あてはまる」と「よくあてはまる」、又は「まったくあてはまらない」と「あてはまらない」と回答した人数（と割合）は、次のとおりである。

- ①「学校に行くのが楽しい」：1 学年 366 人（82.4%）、2 学年 305 人（73.1%）、3 学年 297 人（73.9%）
- ②「学校でもよく勉強しているほうだ」で「まったくあてはまらない」、「あてはまらない」に回答した生徒は、1 学年 401 人（81.3%）、2 学年 334 人（79.7%）、3 学年 316 人（78.4%）である。
- ③「友達に恵まれているほうだ」：1 学年 394 人（89.1%）、2 学年 365 人（92.3%）、3 学年 354 人（88.3%）
- ④「先生を信頼して何でも話すことができる」：1 学年 233 人（52.5%）、2 学年 174 人（41.7%）、3 学年 226 人（56.2%）
- ⑤「部活には熱心に参加している」：1 学年 297 人（67.2%）、2 学年 214 人（51.3%）、3 学年

- 218人（54.5%）
- ⑥「学校に行くことは私の将来に役立つ」：1学年414人（93.2%），2学年391人（90.9%），3学年361人（89.6%）
- ⑦「いま勉強することは私の将来に役立つ」：1学年413人（93.0%），2学年393人（91.4%），3学年370人（91.8%）
- ⑧「友達は私の人生において、かけがえのない貴重な存在だ」：1学年414人（93.2%），2学年391人（93.3%），3学年366人（91.0%）
- ⑨「よく勉強して実力をつけても、何の役に立つかわからない」で「まったくあてはまらない」と「あてはまらない」に回答した人数（と割合）は，1学年291人（61.0%），2学年256人（61.1%），3学年252人（62.5%）である。
- ⑩「この学校は，私にとって良い影響を与えている」：1学年384人（86.7%），2学年332人（79.2%），3学年316人（78.4%）

表2【学校生活・家庭学習】

		学年	1	2	3	4
1	学校楽しい	1	13 2.9%	65 14.6%	224 50.5%	142 32.0%
		2	27 6.5%	85 20.4%	218 52.3%	87 20.9%
		3	18 4.5%	87 21.6%	203 50.5%	94 23.4%
		計	57 4.5%	237 18.8%	645 51.1%	323 25.6%
2	勉強	1	123 27.7%	238 53.6%	72 16.2%	11 2.5%
		2	138 32.9%	196 46.8%	68 16.2%	17 4.1%
		3	110 27.3%	206 51.1%	73 18.1%	14 3.5%
		計	370 29.2%	640 50.6%	213 16.8%	42 3.3%
3	友人	1	10 2.3%	38 8.6%	215 48.6%	179 40.5%
		2	9 2.2%	23 5.5%	219 52.5%	166 39.8%
		3	11 2.7%	36 9.0%	191 47.6%	163 40.6%
		計	30 2.4%	96 7.6%	625 49.6%	508 40.3%
4	先生を信頼	1	48 10.8%	163 36.7%	174 39.2%	59 13.3%
		2	77 18.5%	166 39.8%	140 33.6%	34 8.2%
		3	32 8.0%	144 35.8%	169 42.0%	57 14.2%
		計	156 12.4%	473 37.5%	483 38.3%	150 11.9%
5	部活	1	83 18.8%	62 14.0%	151 34.2%	146 33.0%
		2	145 34.8%	58 13.9%	114 27.3%	100 24.0%
		3	108 27.0%	74 18.5%	110 27.5%	108 27.0%
		計	336 26.7%	194 15.4%	374 29.7%	354 28.1%
6	学校・有益	1	6 1.4%	24 5.4%	170 38.3%	244 55.0%
		2	7 1.7%	31 7.4%	194 46.3%	187 44.6%
		3	6 1.5%	36 8.9%	196 48.6%	165 40.9%
		計	19 1.5%	91 7.2%	559 44.2%	596 47.1%
7	勉強・有益	1	5 1.1%	26 5.9%	172 38.7%	241 54.3%
		2	6 1.4%	30 7.2%	185 44.2%	198 47.3%
		3	4 1.0%	29 7.2%	176 43.7%	194 48.1%
		計	15 1.2%	85 6.7%	532 42.1%	633 50.0%
8	友人・貴重	1	8 1.8%	22 5.0%	150 33.8%	264 59.5%
		2	7 1.7%	21 5.0%	152 36.3%	239 57.0%
		3	8 2.0%	28 7.0%	151 37.6%	215 53.5%
		計	23 1.8%	71 5.6%	453 35.8%	717 56.7%
9	勉強の意義	1	74 16.7%	197 43.9%	133 30.0%	40 9.0%
		2	69 16.5%	187 44.6%	126 30.1%	37 8.8%
		3	67 16.6%	185 45.9%	122 55.7%	29 7.2%
		計	210 16.6%	569 44.9%	381 30.1%	105 8.3%
10	学校・影響	1	11 2.5%	48 10.8%	224 50.6%	160 36.1%
		2	16 3.8%	71 16.9%	219 52.3%	113 27.0%
		3	17 4.2%	70 17.4%	196 48.6%	120 29.8%
		計	43 3.4%	189 15.0%	639 50.6%	393 31.1%

(3) 興味・関心及び価値観（善悪観）の要因と学校適応の相関

① 「毎日学校に行くのが楽しい」との相関関係

a) 「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 1-1)

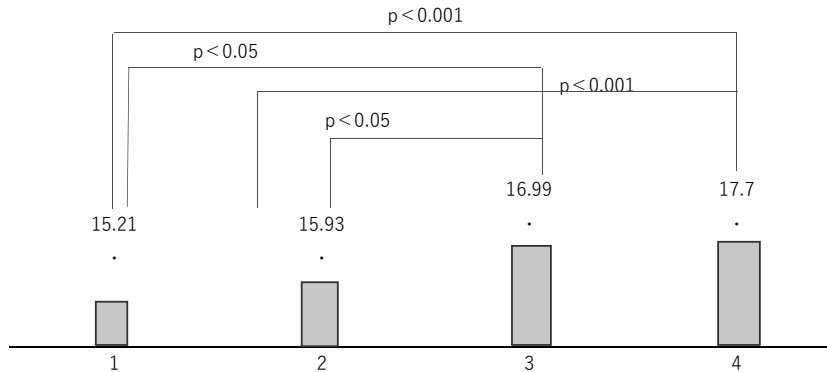


図 1-1 現代的・社会的問題への関心のグループ×学校適応（毎日学校楽しい）

3 グループ（あてはまる）と 4 グループ（よくあてはまる）が 1 グループ（まったくあてはまらない）と 2 グループ（あてはまらない）よりも「戦争・平和」「世界の貧困、飢餓」「国際政治・情勢」「日本の景気」「自然変異（地震・大雨）」「経済格差」等の「現代的・社会的問題への関心」が高い。

b) 「教室の美化への関心のグループ」(図省略) :3 と 4 グループが 1 と 2 グループより「教室の清掃」や「教室の汚れ」など「教室の美化への関心」が高い。

c) 「自己の将来と学業への関心のグループ」(図省略) :4 グループ（よくあてはまる）が他のグループより、「テストの成績」「授業」「卒業生の進学先」「親の仕事内容」「家族」「睡眠時間」等の「自己の将来と学業への関心」が高い。

d) 「課外活動と将来の出会いの関心のグループ」(図省略) :4 グループ（よくあてはまる）が他のグループより、「結婚」「運命」「文化祭」「友人」「スポーツ」など「課外活動と将来の出会いへの関心」が高い。

e) 「日常的問題と将来の自己への関心のグループ」(図省略) :3 と 4 グループが他のグループより、「将来の職業」「自分の 10 年後」「海外留学」「アルバイト」「ボランティア」「車の運転」「心霊現象」「援助交際」等の「日常的問題と将来の自己への関心」が高い。

f) 「IT への関心のグループ」(図省略) :4 グループが他のグループより、「インターネット」「人工知能」「スマートフォン」等の「IT への関心」が高い。

g) 「日常生活規範」(図省略) :4 グループが他のグループより、「無免許運転」「空き缶のポイ捨て」「ガムの吐き捨て」「定期テストでのカンニング」「政治家の賄賂」「徒歩での信号無視」「友人との約束に遅刻」「バイト先に遅刻」「シルバーシートでの寝たふり」「いじめの見ないふり」「授業延長」等に対して、否定的に捉えるなど「日常生活規範」意識が高い。

h) 「学校規範」(図省略) :4 グループが他のグループより、「イヤリング登校」「服装違反で登校」「授業中に寝る」「無断外泊する」「夜遅くまでバイトする」「缶ジュースの飲み歩き」「授業中の内職」等に対して、否定的に捉えるなど「学校規範」意識が高い。

i) 「学習規範」(図省略) :4 グループが他のグループより、「学校に遅刻すること」「教室に落書きする」「他人の本の無断借用」「授業をサボる」「授業中にジュースを飲む」「勉強せずに部活に没頭する」等に対して、否定的に捉えるなど「学習規範」意識が高い。

j) 「善行規範」(図省略) :4 グループが他のグループより、「収益金の募金」「緊急事故への輸血協力」「共同募金への協力」「3 か年皆勤」「スポーツ推薦で大学に合格」「夜遅くまで勉強する」等

に対して、肯定的に捉えるなど「善行規範」意識が高い。

②「学校でも家でもよく勉強しているほうだ」との相関関係

a)「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 2-1) :

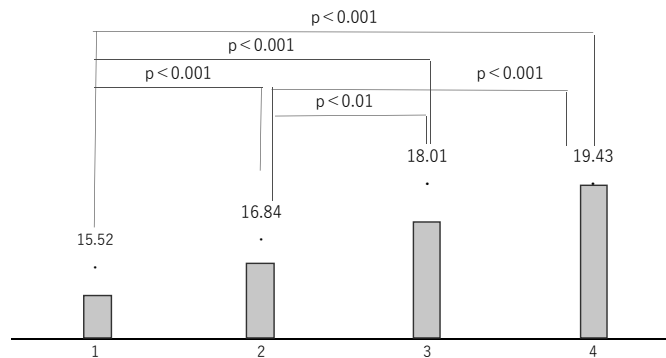


図2-1 現代的・社会的問題への関心のグループ×勉強

3グループ（あてはまる）と4グループ（よくあてはまる）が1グループ（まったくあてはまらない）と2グループ（あてはまらない）よりも「現代的・社会的問題への関心」が高い。

b)「教室の美化への関心のグループ」(図省略) :3グループと4グループが「教室への美化への関心」が高く、1グループは他のグループより「教室の美化への関心」が低い。

c)「将来と学業への関心のグループ」(図省略) :3グループと4グループが他のグループよりも「将来と学業への関心」が高い。

d)「課外活動と将来の出会いへの関心のグループ」(図省略) :3と4グループが他グループよりも「課外活動と将来の出会いへの関心」が高い。

e)「日常的問題と将来の自己への関心のグループ」(図省略) :2と3グループが他のグループより、「日常的問題と将来の自己への関心」が高い。

f)「ITへの関心のグループ」(省略) :3と4グループが他のグループよりも「ITへの関心」が高い。

g)「日常生活規範」(図省略) :3と4グループが他のグループよりも「日常生活規範」意識が高い。

h)「学校規範」(図省略) :3と4グループが他のグループよりも「学校規範」意識が高い。

i)「学習規範」(図省略) :3と4グループが他のグループよりも「学習規範」意識が高い。

j)「善行規範」(図省略) :3と4グループが他のグループよりも「善行規範」意識が高い。

③「友人に恵まれているほうだ」との相関関係

a)「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 3-1)

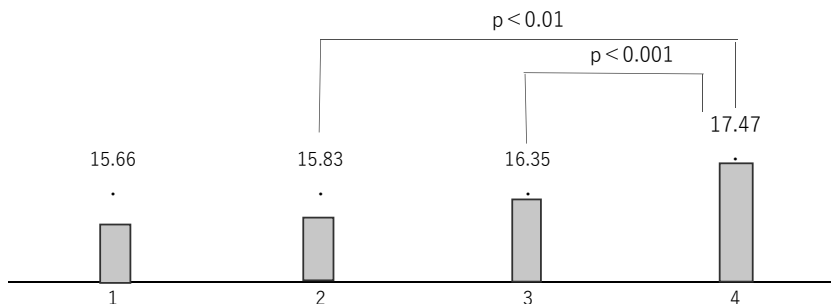


図3-1 現代的・社会的問題への関心のグループ×友人

4 グループが他のグループよりも現代的・社会的問題への関心が高い。

- b) 「教室の美化への関心」(図省略) :4 グループは他のグループより教室の美化への関心が高い。
- c) 「将来と学業への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより自己の将来と学業への関心が高い。
- d) 「課外活動と将来の出会いへの関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも課外活動と将来の出会いへの関心が高い。
- e) 「日常的問題と将来の自己への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常的問題と将来の自己への関心が高い。
- f) 「IT への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも IT への関心が高い。
- g) 「日常生活規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常生活規範意識が高い。
- h) 「学校規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学校規範意識が高い。
- i) 「学習規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学習規範意識が高い。
- j) 「善行規範」(図省略) :3 と 4 グループが他のグループよりも善行規範意識が高い。

④ 「先生を信頼して何でも話することができる」との相関関係

a) 「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 4-1)

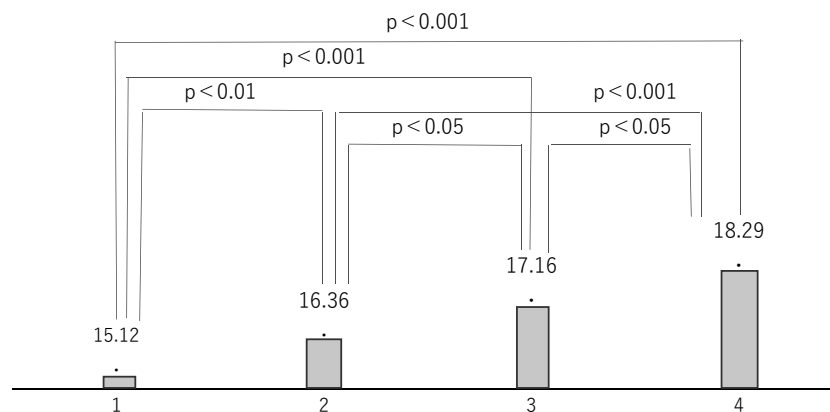


図4-1 現代的・社会的問題への関心のグループ×先生・信頼

4 グループが他のグループよりも現代的・社会的問題への関心が高い。

- b) 「教室の美化への関心のグループ」(図省略) :3 と 4 グループが他のグループより教室の美化への関心が高い。
- c) 「将来と学業への関心のグループ」(図省略) :4 グループが他のグループより自己の将来と学業への関心が高い。
- d) 「課外活動と将来の出会いへの関心のグループ」(図省略) :4 グループが他のグループよりも課外活動と将来の出会いへの関心が高い。
- e) 「日常的問題と将来の自己への関心のグループ」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常的問題と将来の自己への関心が高い。
- f) 「IT への関心のグループ」(図省略) :4 グループが他のグループよりも IT への関心が高い。
- g) 「日常生活規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常生活規範意識が高い。
- h) 「学校規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学校規範意識が高い。
- i) 「学習規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学習規範意識が高い。
- j) 「善行規範」(図省略) :3 と 4 グループが他のグループよりも善行規範意識が高い。

⑤ 「部活には熱心に参加している」との相関関係

a) 「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 5-1)

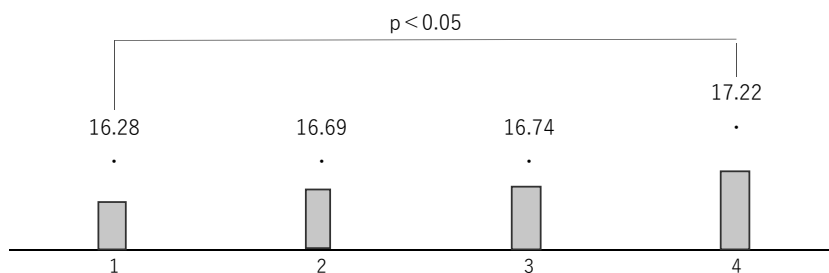


図 5 - 1 現代的・社会的問題への関心のグループ×部活

4 グループが他のグループよりも現代的・社会的問題への関心が高い傾向にある。

- b) 「教室の美化への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより教室の美化への関心が高い傾向にある。
- c) 「将来と学業への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより自己の将来と学業への関心が高い。
- d) 「課外活動と将来の出会いへの関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも課外活動と将来の出会いへの関心が高い。
- e) 「日常的問題と将来の自己への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常的問題と将来の自己への関心が高い。
- f) 「IT への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも IT への関心が高い。
- g) 「日常生活規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常生活規範意識が高い。
- h) 「学校規範」(図省略) :有意差なし。
- i) 「学習規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学習規範意識が高い。
- j) 「善行規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも善行規範意識が高い。

⑥ 「学校に行くことは私の将来に役立つ」との相関関係

a) 「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 6-1)

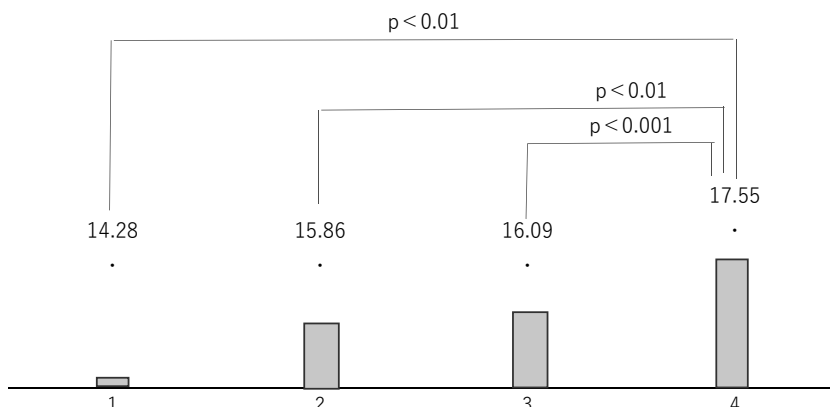


図6 - 1 現代的・社会的問題への関心のグループ×学校

4 グループが他のグループよりも現代的・社会的問題への関心が高い。

- b) 「教室の美化への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより教室の美化への関心が高い。
- c) 「将来と学業への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより自己の将来と学業への関心

が高い。

- d) 「課外活動と将来の出会いへの関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも課外活動と将来の出会いへの関心が高い。
- e) 「日常的問題と将来の自己への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常的問題と将来の自己への関心が高い。
- f) 「IT への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも IT への関心が高い。
- g) 「日常生活規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常生活規範意識が高い。
- h) 「学校規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学校規範意識が高い。
- i) 「学習規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学習規範意識が高い。
- j) 「善行規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも善行規範意識が高い。

⑦ 「いま勉強することは私の将来に役立つ」との相関関係

- a) 「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 7-1)

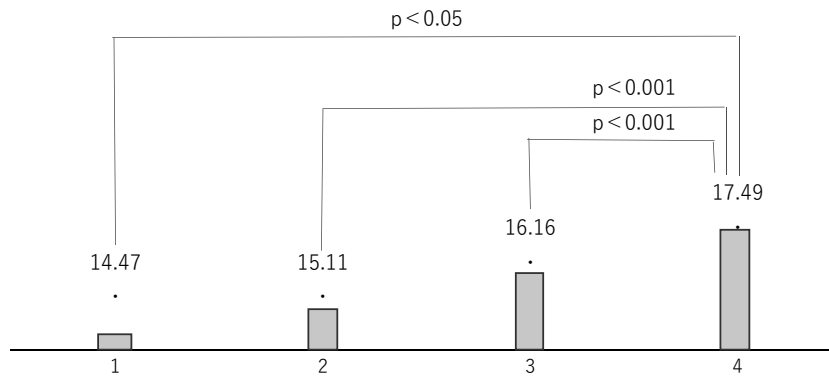


図7-1 現代的・社会的問題への関心のグループ×勉強

4 グループが他のグループよりも現代的・社会的問題への関心が高い。

- b) 「教室の美化への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより教室の美化への関心が高い。
- c) 「将来と学業への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより自己の将来と学業への関心が高い。
- d) 「課外活動と将来の出会いへの関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも課外活動と将来の出会いへの関心が高い。
- e) 「日常的問題と将来の自己への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常的問題と将来の自己への関心が高い。
- f) 「IT への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも IT への関心が高い。
- g) 「日常生活規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常生活規範意識が高い。
- h) 「学校規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学校規範意識が高い。
- i) 「学習規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学習規範意識が高い。
- j) 「善行規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも善行規範意識が高い。

⑧ 「友達是我的人生において、かけがえのない貴重な存在だ」との相関関係

a) 「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 8-1)

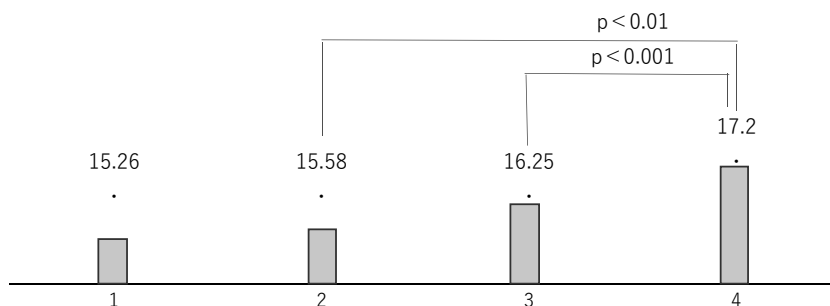


図8-1 現代的・社会的問題への関心のグループ×人生・友人

4 グループが他のグループよりも現代的・社会的問題への関心が高い。

- b) 「教室の美化への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより教室の美化への関心が高い。
- c) 「将来と学業への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより自己の将来と学業への関心が高い。
- d) 「課外活動と将来の出会いへの関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも課外活動と将来の出会いへの関心が高い。
- e) 「日常的問題と将来の自己への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常的問題と将来の自己への関心が高い。
- f) 「IT への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも IT への関心が高い。
- g) 「日常生活規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常生活規範意識が高い。
- h) 「学校規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学校規範意識が高い。
- i) 「学習規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学習規範意識が高い。
- j) 「善行規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも善行規範意識が高い。

⑨ 「よく勉強して実力をつけても、何の役に立つのかわからない」との相関関係

a) 「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 9-1)

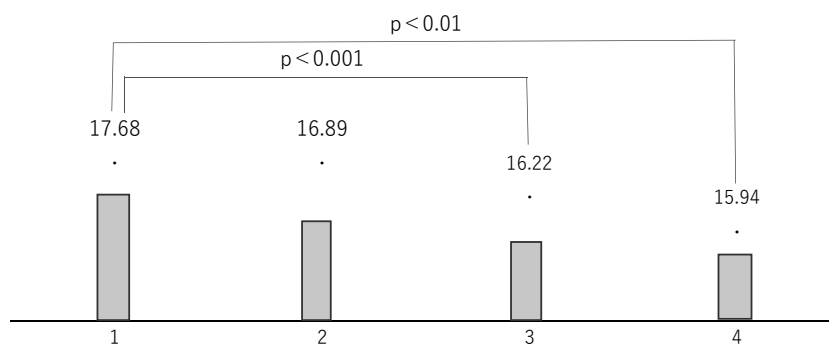


図9-1 現代的・社会的問題への関心のグループ×実力

1 グループ（よく勉強して実力をつけることを肯定）が他のグループよりも現代的・社会的問題への関心が高い。

- b) 「教室の美化への関心」(図省略) :1 グループが他のグループより教室の美化への関心が高い。
- c) 「将来と学業への関心」(図省略) :1 と 2 グループが他のグループより自己の将来と学業への関心が高い。
- d) 「課外活動と将来の出会いへの関心」(図省略) :有意差なし。

- e) 「日常的問題と将来の自己への関心」(図省略) :1 と 2 グループが他のグループよりも日常的問題と将来の自己への関心が高い。
- f) 「IT への関心」(図省略) :有意差なし。
- g) 「日常生活規範」(図省略) :1 と 2 グループが他のグループよりも日常生活規範意識が高い。
- h) 「学校規範」(図省略) :1 グループが他のグループよりも学校規範意識が高い。
- i) 「学習規範」(図省略) :1 グループが他のグループよりも学習規範意識が高い。
- j) 「善行規範」(図省略) :有意差なし。

⑩「この学校は、私にとって良い影響を与えている」との相関関係

- a) 「現代的・社会的問題への関心のグループ」(図 10-1)

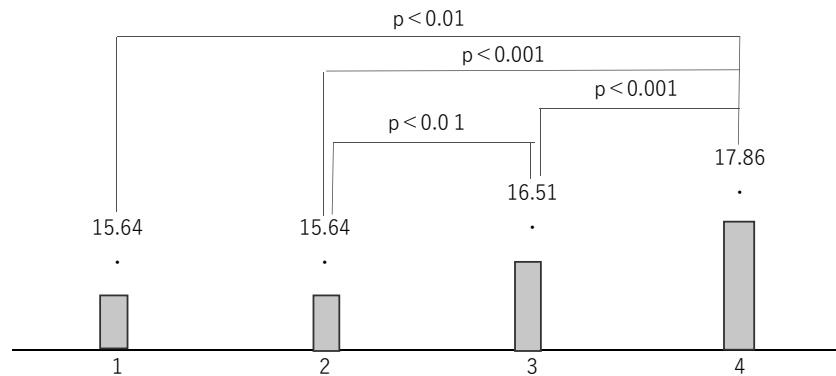


図10-1 現代的・社会的問題への関心のグループ×良い影響

4 グループが他のグループよりも現代的・社会的問題への関心が高い。

- b) 「教室の美化への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより教室の美化への関心が高い。
- c) 「将来と学業への関心」(図省略) :4 グループが他のグループより自己の将来と学業への関心が高い。
- d) 「課外活動と将来の出会いへの関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも課外活動と将来の出会いへの関心が高い。
- e) 「日常的問題と将来の自己への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常的問題と将来の自己への関心が高い。
- f) 「IT への関心」(図省略) :4 グループが他のグループよりも IT への関心が高い。
- g) 「日常生活規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも日常生活規範意識が高い。
- h) 「学校規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学校規範意識が高い。
- i) 「学習規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも学習規範意識が高い。
- j) 「善行規範」(図省略) :4 グループが他のグループよりも善行規範意識が高い。

4. 考察

(1) 学校生活や家庭での勉強についての性差

「あてはまる」「よくあてはまる」と回答した割合で、性差のあった項目について述べる。

全体として、男子と比較し、女子は「あてはまる」「よくあてはまる」に回答した割合が高くなっている項目が多い。

「学校に行くのが楽しい」(男子 75.6%, 女子 77.3%), 「友達に恵まれているほうだ」(男子 85.7%, 女子 92.6%), 「部活には熱心に参加している」(男子 57.3%, 女子 58.3%) 「学校に行くことは私の将来に役立つ」(男子 89.4%, 女子 92.5%), 「いま勉強することは私の将来に役立つ」

（男子 91.5%，女子 92.5%）、「友達は私の人生において、かけがえのない貴重な存在だ」（男子 91.9%，女子 92.9%）、「この学校は、私にとって良い影響を与えている」（男子 79.5%，女子 82.9%）で、女子の「あてはまる」「よくあてはまる」に回答の割合が高くなっている。

また、女子と比較して、男子が「あてはまる」「よくあてはまる」に回答した割合が高くなっている項目は、「先生を信頼して何でも話すことができる」（男子 51.2%，女子 49.6%）、「よく勉強して実力をつけても、何の役に立つのかわからない」で「まったくあてはまらない」と「あてはまらない」と回答した割合は男子 63.2%，女子 60.6% である。

以上のことから、全体的に比較して女子の方が男子よりも学校生活に適応し、学校生活を楽しみ、家庭生活においても適応している割合が高くなっているものと推測できる。

（2）学校生活や家庭での勉強についての学年差

「あてはまる」「よくあてはまる」に回答した割合で、学年差のあった項目について述べる。

1 学年で回答の割合が高い質問項目は、「学校に行くのが楽しい」（1 学年 82.4%，2 学年 73.1%，3 学年 73.9%）、「部活には熱心に参加している」（1 学年 67.2%，2 学年 51.3%，3 学年 54.5%）、「学校に行くことは私の将来に役立つ」（1 学年 93.2%，2 学年 90.9%，3 学年 89.6%）、「いま勉強することは私の将来に役立つ」（1 学年 93.0%，2 学年 91.4%，3 学年 91.8%）、「この学校は、私にとって良い影響を与えている」（1 学年 86.7%，2 学年 79.2%，3 学年 78.4%）である。

2 学年で回答の割合が高い質問項目は、「友達に恵まれているほうだ」（1 学年 89.1%，2 学年 92.3%，3 学年 88.3%）である。

3 学年で回答の割合が高い質問項目は、「学校でもよく勉強しているほうだ」（1 学年 18.7%，2 学年 20.3%，3 学年 21.6%）、「先生を信頼して何でも話すことができる」（1 学年 52.5%，2 学年 41.7%，3 学年 56.2%）、「よく勉強して実力をつけても、何の役に立つのかわからない」（1 学年 39.0%，2 学年 38.9%，3 学年 37.5%）である。

以上のことから、進学や就職など将来の進路選択に直面している 3 学年は、学習時間の確保や教師との相談時間等の確保を肯定的に捉えている。一方で、学校に期待する項目は 1 学年で数値が高くなるものの、学年進行とともに自分自身で思考し行動する傾向が強まるため、その割合が低下するものと推察できる。

（3）興味・関心及び価値観（善悪観）の要因と学校適応の相関

クラスター分析から導き出した「興味・関心」の要因①「現代的・社会的問題への関心」、②「教室の美化への関心」、③「将来と学業への関心」、④「課外活動と将来の出会いへの関心」、⑤「日常的問題と将来の自己への関心」、⑥「IT への関心」と価値観（善悪観）の要因①「日常生活規範」、②「学校規範」、③「学習規範」、④「善行規範」と「学校生活や家庭での勉強について（学校適応）」のとの相関関係の特徴は次の通りである。

クラスター分析から導き出した「興味・関心」の 6 つの要因と「学校生活や家庭での勉強について（学校適応）」の項目①「毎日学校に行くのが楽しい」、②「学校でも家でもよく勉強しているほうだ」、③「友人に恵まれているほうだ」、④「先生を信頼して何でも話すことができる」、⑤「部活には熱心に参加している」、⑥「学校に行くことは私の将来に役立つ」、⑦「いま勉強することは私の将来に役立つ」、⑧「友達は私の人生において、かけがえのない貴重な存在だ」、⑩「この学校は、私にとって良い影響を与えている」で「あてはまる」と「よくあてはまる」に回答しているグループ、⑨「よく勉強して実力をつけても、何の役に立つのかわからない」で「まったくあてはまらない」と「あてはまらない」に回答しているグループが他のグループよりも高

い相関関係を示している。

また、価値観（善悪観）の要因である①「日常生活規範」、②「学校規範」、③「学習規範」、④「善行規範」に対して、ほぼ同様の傾向となっている。

以上の結果より、学校生活及び家庭生活でうまく適応していると回答している者は、様々なことに対して興味・関心が高く、価値観（善悪観）も備わっているものと推測できる。そのため、学校教育生活全体を通して、高い学力を育てるためのキャリア教育等を充実させることが大切であると考えられる。

5. まとめ

今回、学校生活及び家庭での学習（学校適応）について、性差及び学年差を明らかにした。また、クラスター分析の結果に基づき興味関心及び価値観（善悪観）の要因と学校適応の相関関係についても検証

した。

一つ目に、学校生活や家庭での勉強に関する性差の特徴として、全体的に男子と比較し、女子の方が「毎日学校に行くのが楽しい」「学校に行くことは私の将来に役立つ」「この学校は、私にとって良い影響を与えている」に回答する割合が高く、学校生活及び家庭生活に適応している割合も高くなっているものと推測できる。

二つ目に、学校生活や家庭での勉強に関する学年差の特徴として、進学や就職など将来の進路選択の決定に直面している3学年は、他学年よりも学習時間や教師との相談時間等の確保が肯定的に捉えられている。一方で、学校に期待する項目の回答では、1学年で数値が高くなるものの学年進行とともに数値が低くなっていることが推測できる。

三つ目に、興味・関心及び価値観（善悪観）の要因と学校適応の相関関係に関する特徴として、学校生活及び家庭生活でうまく適応していると回答している者は、様々なことに対して興味・関心が育ち、価値観（善悪観）も備わっているものと推測できる。

以上のことから、沖縄県高等学校の教育においては、学習指導の工夫改善、社会意識の高揚、自己肯定感の涵養のため、親と教師と生徒とのトライアングルコミュニケーションの涵養や討論の機会の増加させることで、自ら学習できる力を育成し、将来を見据えた教育の実践を具体化する教育の実践が求められている。

本調査研究の結果は、高校生の興味・関心や価値観（善悪観）に対する理解を深めるために活用するものであるが、現状を踏まえ、教師と生徒との関わりを深めることで、本県のキャリア教育を支援する知見であることも強調したい。

【引用文献】

沖縄県教育庁，2017，人材育成に係る専門委員会合 - 小中高の現状，課題 -

沖縄県立那覇商業高等学校，1997，平成8年度文部省・沖縄県教育委員会指定グループ研究報告書：沖縄県の高校生の価値観と興味関する調査研究

国立青少年振興機構，2015，高校生の生活を意識に関する調査報告書 - 日本・米国・中国・韓国の比較 -

松井洋，1999，日本の中学生・高校生の価値観に関する研究 - 日本，アメリカ，中国，韓国，トルコ，キプロス，ポーランドとの国際比較研究，川村学園女子大学研究紀要，10（1），pp.131-153

中里至正，松井洋，1997，異質な日本の若者たち - 世界の中高生の思いやりの意識，ブレーン出版